

令和5年3月2日

三豊市議会議長 浜口 恭行 様

教育民生常任委員長 高木 修

## 委員会調査報告書

本委員会に付託された事件について、調査の結果を下記のとおり会議規則第110条の規定により報告します。

### 記

#### 1 調査事件

- ① 京都府京都市  
『不登校特例校について』
- ② 静岡県三島市  
『GIGA スクール構想の推進について』
- ③ 静岡県富士宮市  
『子育て世代包括支援センターの取り組みについて』

#### 2 研修者

委員長	高木 修
副委員長	田中 達也
委員	為広 員史 城中 利文 込山 文吉 三谷 正史 三木 秀樹（7名）
事務局（随行）	齋藤 理恵子

#### 3 調査経過及び概況（別紙1のとおり）

#### 4 委員所感（別紙2のとおり）

## ① 京都府京都市

- (1) 日時 令和 5 年 1 月 1 8 日 (水) 午後 1 時 3 0 分から午後 3 時 3 0 分まで
- (2) 調査案件 『不登校特例校について』
- (3) 対応者

京都市立洛友中学校校長 間野 郁夫  
京都市教育委員会事務局生徒指導課長 笹 雅之

## (4) 調査の経過

京都市立洛友中学校北校舎 1 階ふれあいサロンにおいて、間野校長の挨拶、本市議会高木委員長の挨拶の後、間野校長より京都市立洛友中学校の取り組みについて説明を受けた。午後 3 時まで質疑応答を行った後、同校の施設見学をし、本市議会田中副委員長よりお礼の挨拶を行った。

## (5) 調査の結果

京都市立洛友中学校は、平成 19 年 4 月に開校し、不登校を経験したがそれを克服しようとする学齢期の生徒が学ぶ昼間部(不登校特例校)と、様々な理由により学齢期に義務教育を受けることができなかった、あるいは十分に学ぶことができなかった生徒が学ぶ夜間部(夜間中学校)との二部学級となっている。昼間部の年間授業時数は、770 時間と標準授業時数 1015 時間には満たないが、認められるのが特例校の特色であり、授業内容は、学年単位を基本に総合育成支援員や学生ボランティアなどと共に、少人数で学習を行っている。また、定期テストを年 3 回実施し、個々の生徒が自身の学習状況を把握しやすくしている。進路状況としては、学習面・生活面を含めて、無理をせずに続けることができる、自分にあった進路を選択し、毎年、卒業生のほとんどが高等学校に進学している。5 校時目は昼間部と夜間部の合同授業、交流学习の場とし、昼間部と夜間部の生徒が世代や国籍を超えて、ふれあい学び合うことにより「学ぶ楽しさ」や「わかる喜び」を体感できる学校づくりを進めているとの説明があった。



▲京都市立洛友中学校において視察研修



▲施設見学 間野校長から施設の説明を受ける

## ② 静岡県三島市

- (1) 日時 令和5年1月19日(木) 午後1時30分から午後3時30分まで
- (2) 調査案件 『GIGA スクール構想の推進について』
- (3) 対応者

三島市教育委員会教育総務課長・GIGA スクール推進室長	杉山 慎太郎
同 主幹・総務係長・GIGA スクール推進室主任	高梨 大希
同 総務係・GIGA スクール推進室 主査	渡邊 雅弘
三島市教育委員会学校教育課指導係・GIGA スクール推進室指導主事	星 由起子
同 指導係指導主事	高嶋 大生
三島市議会事務局長	高橋 英朋
同 主幹・議事調査係長	久保田 浩正
同 議事調査係 主査	市川 成一

### (4) 調査の経過

三島市役所3階常任委員会室において、三島市議会事務局高橋局長の挨拶及び三島市の概要説明があり、本市議会高木委員長の挨拶の後、三島市GIGAスクール構想の推進事業について説明を受けた。その後、質疑応答を行い、最後に本市議会田中副委員長がお礼の挨拶を行った。

### (5) 調査の結果

三島市では、「GIGAスクール構想」に基づき、市内公立小中学校児童生徒に1人1台タブレット端末を貸与している。三島市が貸与しているタブレット端末は、アップル社iPad第8世代32GB、LTE対応モデルである。LTE回線を標準装備したことにより、場所を選ばずにいつでもどこでも使用でき、ネットワーク(Wi-Fi)の障害時にも学びを止めることがない。また、令和4年8月下旬、緊急事態宣言が発令されている中、近隣市町は夏季休暇を延長するところもあったが、三島市では、8月26日予定通り学校を再開し、登校を控えたい児童生徒に対してはタブレット端末を利用したオンライン学習を実施した。登校している児童と、自宅にいる児童と一緒に授業に参加できるハイブリット授業としてタブレット端末が活躍をしたとのことである。

これから目指すところは、個別最適な学びと協働的な学びを充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を実現させる。「一斉学習と個別学習」「デジタルとアナログ」「オンラインとオフライン」等の2項対立から「AもBも」の発想でベストミックスを実現することであるとの説明があった。



▲三島市役所において担当者から説明を受ける

### ③ 静岡県富士宮市

(1) 日時 令和5年1月20日(金) 午前9時30分から午前11時30分まで

(2) 調査案件 『子育て世代包括支援センターの取り組みについて』

(3) 対応者

富士宮市保健福祉部子ども未来課長	横山 みどり
同 子育て支援係 主任主査	伏見 賢治
同 子育て世代包括支援センター 子育てコンシェルジュ	望月 晶子
富士宮市保健福祉部健康増進課母子保健係長	安田 美津枝
同 母子保健係 主任保健師	井出 さち代
同 母子保健係 相談員兼保健師	清家 香奈
富士宮市議会議長	鈴木 弘
同 事務局長	久保田 雅史
同 庶務調査係長	佐野 真理子
同 庶務調査係 主査	谷川 光基

(4) 調査の経過

富士宮市役所2階全員協議会室において、富士宮市議会鈴木議長の挨拶、本市議会高木委員長の挨拶の後、子育て世代包括支援センターの取り組みについて説明を受けた。その後、質疑応答を行い、本市議会田中副委員長がお礼の挨拶を行った後、富士宮市立児童館へ移動し、施設見学を行った。

(5) 調査の結果

富士宮市では、妊娠期から子育て期まで切れ目ない支援を行うため平成30年4月から「富士宮市子育て世代包括支援センター」を開設している。母子保健型と基本型をそれぞれ立ち上げ、母子保健を担当する健康増進課に専任保健師の相談員を配置し、子育て支援を担当する子ども未来課に子育てコンシェルジュ(専任保育士)を配置し、各種相談受付を実施している。また、施設見学をした富士宮市立児童館は、子どもの育成や子育て世代を総合的に支援するための新たな拠点施設として令和4年5月に開館した。1階は、遊戯室、集会室、子育て支援センター室、相談室を備え、2階は、多目的スペース、図書室を主な機能として備えている。18歳未満の児童とその同伴者が利用でき、開館から12月末までに15,288人(78人/日)と多くの利用があった。子育てコンシェルジュが常駐することにより、子育て家庭とより身近に関わり支援ができるようになったと説明があった。



▲施設見学 富士宮市立児童館(愛称:らっこ)

## 教育民生常任委員会 行政視察研修所感

委員名

高木 修

## 1 京都市「京都市立洛友中学校」

- ・ 1月18日（水） 午後1時30分～午後3時30分訪問
- ・ <テーマ> 『不登校特例校について』

洛友中学校は、「昼間部と夜間部の良さを生かし、世代や国籍を超えてふれあい学び合う学校」をコンセプトとしている。昼間部と夜間部の生徒を交流させるなどして、工夫を凝らしている。

- ・ <所感>

本音で勝負する精神がみなぎっており、新しいことへの取組みに躊躇がない。お手本にしたい。

## 2 静岡県三島市

- ・ 1月19日（木） 午後1時30分～午後3時30分訪問
- ・ <テーマ> 『GIGA スクール構想の推進について』

三島市では、市内公立小中学校の全児童生徒を対象に学習用 i P a d を貸与している。

また、三島版 GIGA スクール家庭向け資料「みんなで学ぼうタブレット端末活用のルール家庭向けQ&A」が作成されており、活用がなされている。

- ・ <所感>

中央の専門家のアドバイスも受け入れ、熱心に取り組んでいる。参考になる。

## 3 静岡県富士宮市

- ・ 1月20日（金） 午前9時30分～午前11時30分訪問
- ・ <テーマ> 『子育て世代包括支援センターの取り組みについて』

「子育てコンシェルジュ」が、地域子育て支援センターや地域子育てサロン、保育園、認定こども園、幼稚園などを巡回している。

妊娠、出産から子育て期まで、切れ目なく子育てサポートを行っている。富士宮市立児童館（愛称：らっこ）が令和4年5月にオープンし、子どもの育成や子育て世代の総合的な支援拠点として機能している。

- ・ <所感>

職員が、プライドを持って業務推進に当たっている。

## 教育民生常任委員会 行政視察研修所感

委員名

田中 達也

### 1 研修日程

令和5年1月18日（水） 午後1時30分～午後3時30分

### 2 研修先

京都府京都市 京都市立洛友中学校（施設見学）

### 3 研修目的

不登校特例校についての先進事例視察のため

### 4 研修所感

洛友中学校は、平成19年4月に開校しており、不登校を経験した学齢期の生徒が通う「昼間部」と「夜間部」を併設している。夜間部は様々な事情により義務教育を終了できなかった方や、形式卒業をした方など、様々な年齢層、国籍の方が在籍している。

特徴的なのは、昼間部と夜間部の授業時間を一部オーバーラップさせ、双方の生徒間で一緒に授業を受けるなどの交流の時間を持っていること。

5教科にあたる授業を一緒に行うことは難しいため、実技（美術等）を合同時間に行っており、世代間の交流がよい効果を生んでいるとのこと。

平成16年10月に開校した「洛風中学校」との間で、活動時間・定員に差をつけている。

洛風中学校 定員40名程度、活動時間9:30～15:20

洛友中学校 定員15名程度、活動時間13:30～18:20

これにより、起立性調節障害で朝が苦手、極小規模校でないとダメなどの生徒の個性に対応しているとのこと。

三豊市の場合、学齢期の生徒も夜間のみであるが、時間帯の選択肢がないことがどのように影響するのかの検証が必要と感じた。

洛風・洛友に一度移籍すると、元の学校には戻れないようになっている。そもそも元の学校に戻る可能性のある生徒は来ないそうで、このルールが問題になることはないようである。

三豊市の場合でも、同様のルールがあり、長い体験期間を経ての移籍となっている。

遅刻・早退にも寛容で、交流の時間だけに出席する生徒も「よく来たな」と歓迎する姿勢。できない子にできないことを指摘するのは逆効果であり、その子に合った接し方をすることが重要。自尊感情を高めるための意図的な取り組みを行っているとのこと。

その結果、私立の通信制高校（様々な面白いコースを持った学校）に進学を果たしているとのことであった。

今後、三豊市立高瀬中学校夜間部での実績を追うにあたり、比較材料として有意義な視察であった。

#### 1 研修日程

令和5年1月19日（木） 午後1時30分～午後3時30分

#### 2 研修先

静岡県三島市

#### 3 研修目的

GIGA スクール構想の推進についての先進事例視察のため

#### 4 研修所感

##### 組織について

GIGA スクール推進室が、教育総務課内に設置されている。

##### ハード整備について

iPad 第8世代 32GB LTE モデルを採用。9030 台導入

キーボードカバー及びタッチペン付き

LTE 回線は、月間 5GB/台×9030 台 約 40TB をシェア

以下の事例から LTE モデルを採用したことが英断であったと考える。

- Wi-Fi 環境がない家庭に、ポケット Wi-Fi を貸し出すための調査や事務的な手間が学校現場にかからない。
- 運動場や部活動での活用など、場所を選ばず活用できている。
- コロナ禍（デルタ株の時期）でのハイブリッド授業で活用された。  
他県や他市町では夏季休業の延長を決めるところが多数ある中、予定通りに学校を再開することができている。  
授業のライブ配信、オンラインで配布された学習シートを教員の指示や助言により進めるなどの対策が取られた。



## 学校現場における状況

三島版 GIGA スクール教員ステップアップシートを作成

GIGA 端末は何でもできるから、何から手を付けてよいかわからないという教員の声にこたえて策定された。

導入しているアプリケーション毎、情報モラル・プログラミング教育について、それぞれ活用目標が 5 段階のステップに分けて整理されている。

活用初年度の先生はステップ 3 を、活用 2 年目以降の先生はステップ 4 を目指すこととしており、2022 年 9 月のアンケートでは、ステップ 3～4 に到達している教員の割合が最も多い結果であった。

明確なステップの提示が、教員のスキルアップに十分な効果を発揮していることが見受けられる。

授業で ICT 機器を活用する頻度は、「半数以上の授業」「日に 1～3 回」が約 7 割を占めており、積極的に活用されている状況がうかがえる。

端末の普段使いを合言葉に、生徒自身が端末を使うシーンを選定している。

- 休み時間
- 部活動
- 生徒会活動

Microsoft Teams で集まらずに打合せを行い、Forms によるアンケートで意思決定を行うことで、コロナ禍に対応  
大人顔負けのプレゼン資料を作っている

- プログラミング学習に先進的に取り組む  
様々な才能が開花した子どもも

これにより、保管庫にそろって端末が保管されていることはない状況となっている。

保管庫の撤去を希望する学校もあるほど。

端末の持ち帰りについては、ほぼ毎日行われている。

ICT の普及に従い、生徒指導案件も増えていることから、情報モラル・デジタルシティズンシップの指導も重視。

育成を目指す資質・能力を評価基準として 4 ステップで明示し取り組んでいる。

ステップ 1 (小学校低学年)、ステップ 2 (小学校中学年)、ステップ 3 (小画工高学年、ステップ 4 (中学)

テクノロジーの積極的な利活用と、他律的・抑圧的な指導から自律的・促進的な指導への移行を求めている。



## まとめ

ICT 端末の積極的な活用については、三豊市よりも明らかに進んでいる。要因として、教育委員会としての取組に大きな差があるのではなく、学校現場でのマインドの広がりによって課題があると思われる。

所管委員会では、現場の意識を注視するとともに、機器の更新時期に向けて最適な機器選定と予算措置についての調査を続ける必要があると考える。

### 1 研修日程

令和5年1月20日（金） 午前9時30分～午前11時30分

### 2 研修先

静岡県富士宮市 富士宮市立児童館（施設見学）

### 3 研修目的

子育て世代包括支援センターの取り組みについての先進事例視察のため

### 4 研修所感

#### 富士宮市立児童館（らっこ）について

1日平均78人が利用

職員3名を雇用し、最低2名常駐

子育てコンシェルジュが1名常駐

ファミリーサポートセンター職員1名常駐

令和3年度に建設

建設費 279,180,000円

現地を訪問し、使用形態について確認した。

三豊市で建設する提案がされた際、比較材料としたい。

#### 不妊治療費

80万円補助

静岡県内最大

出生数 全国的に減少傾向

富士宮市でも減少

不妊治療補助が出生数の増加に効果があるとは言えない状況と受け取った。

住みやすいまちとのバランスで、費用対効果をどこに置くのかが課題と感じる。

## 子育て世代包括支援センター

子育て支援の成果指標  
虐待項目該当者率が減少

ゆったりとした気分で子供と過ごせる時間がある母親の割合が増加  
コンシェルジュ相談件数、巡回件数が増加

子育て支援に限らず、成果指標の可視化は重要であり、全ての事業に対して求めている。

## 産後ケアの利用

訪問型を導入

## 支援センターの広報手段

母子手帳発行時に、パンフ  
孫がつなぐ笑顔の輪 子育て応援ブック  
包括支援センターリーフレットなど

## 核家族に限らず、同居家族でも、最近の子育てはわからないなどの声

孫がつなぐ笑顔の輪 子育て応援ブックを活用

※確認したところ、三豊市にも同様の取り組みがあった。

## 父親の関わりに対する支援は？

妊婦体験で大変さを実感してもらう  
家事シェアリングの啓発

妊婦の大変さを実感することが家事への参画を促すのかという疑問が多い。

お互いの担う役割のバランスについて正しく認識するためには、自己分析も必要と考える。

母親は大変、父親も大変という認識から始めるべきではなかろうか。

## 子育てコンシェルジュ

5年目 まだあまり周知されていない  
1~2ヶ月に一度、コンシェルジュだよりを発行

## 教育民生常任委員会 行政視察研修所感

委員名

為広 員史

### 1 研修日程

令和5年1月18日～20日

### 2 研修先

18日 京都府京都市立洛友中学校

19日 静岡県三島市議会

20日 静岡県富士宮市議会

### 3 研修目的

夜間中学校や教育支援・子育て支援について先進事例視察

### 4 研修内容・所感

#### (1) 京都市立洛友中学校 不登校特例校・夜間中学校の取り組みについて

平成19年4月1日旧郁文中学校を引き継ぎ、不登校児童生徒等を対象とする特別の教育課程を編成して教育を実施する学校に関する要綱（平成17年7月6日文科科学大臣決定）に基づく指定校（平成19年3月16日指定）として開校。

現在生徒数は、昼間部・夜間部合わせて男子8名・女子26名の合計34名で運営している。また5時間目を昼夜部交流学习としている。旧中学校を使用しているため、ゆったりとした施設利用をしている。外国人も19名在籍しているためクラス編成も性別・年齢・母語・形式卒業等を配慮したクラス編成をしている。歴史も古く大変参考になった。これからの課題として生徒数の減少やコロナ禍での外国人や不登校児童の対応など共通する問題について考えていきたい。

#### (2) GIGA スクール構想の推進について

教育に関する大綱

「基本理念」学びと文化と子供を育むまち

- 三島市学校教育振興計画 豊かな感性と確かな学力を持つ心身ともに健康な子供の育成～実現のために
- 三島市生涯学習推進プラン 心豊かに学び夢と希望のあふれるまち～実現のために
- 三島市文化振興基本計画 創造力あふれる人とまち・みしま～実現のために

●三島市子ども・子育て支援事業計画 子ども親もともに育つ笑顔あふれる三島大家族～実現のために

この4計画・プランのもと 教育推進部にG I G Aスクール推進室を設け、G I G Aスクール構想も推進している。子どもたち全員へタブレットを貸与し活用している。

三豊市でもこの研修を参考にして今後も進めていきたい。

(3) 子育て世代包括支援センターの取り組みについて

富士宮市は、富士山の南西部に位置し、富士山をはじめ、広大な森林、高原、豊富な湧水等の恵まれた自然環境でおいしく特色のある多様な食材があり、この優れた食資源を活かし、地域の産業振興と市民の健康・幸せづくりを目指そうと「フードバレー構想」を掲げて、食を中心とした町づくりを進めている。

妊娠期から出産、子育て期にわたる相談窓口で、これからお母さんになる方や、子育て中の家族を応援している。「子育てコンシェルジュ」が、地域子育てセンターや地域子育てサロン、保育園、認定こども園、幼稚園などへ訪問や巡回をしながら、子育ての相談や、悩みの内容によっては関係機関の紹介なども行い、妊娠・出産から子育て期まで切れ目なく子育てサポートを行っている。

「子育てコンシェルジュ」が常駐している、富士宮市立児童館（愛称：らっこ）は、令和4年5月7日にオープンし、子どもの育成や子育て世代を総合的に支援するための新たな拠点施設として、①遊び場②乳幼児の育成相談等、子育て支援センター③子育て援助のファミリー・サポートセンター④子育て相談等子育て世代包括支援センターの4つの機能を兼ね備え運営している。

また、富士宮市公式子育て支援ガイドブック「宮っ子育てガイド」を発行して子育て支援をしている。大変よく整理されており子育て世代にとっては手放せない本だと感じた。

富士宮市立児童館は、児童館職員3人・子育てコンシェルジュ1人・ファミリーサポートセンター職員1人の5人で運営している。総事業費279,180,000円で建設、富士山に見える絶好のロケーションの場所に建設されていて1日平均78人の利用者がある、スッキリとした施設でした。三豊市の場合は、他施設と一緒に複合施設として建設が望ましいと思う。これからしっかりと協議して決めていきたい。

## 教育民生常任委員会 行政視察研修所感

委員名

城中 利文

1 研修日程

令和5年1月18日（水） 午後1時30分～午後3時30分

2 研修先

京都府京都市 京都市立洛友中学校（施設見学）

3 研修目的

不登校特例校について

4 研修所感

京都市立洛友中学校は、「昼間部と夜間部の良さを生かし、世代や国籍を超えてふれあい学び合う学校」をコンセプトとし、不登校を経験した学齢期の生徒が通う昼間部（不登校特例校）と学齢超過の義務教育未修了者を対象とする夜間部（夜間中学）を併設した学校である。社会性や自己肯定感を育むとともに、「学びの原点」「学びの楽しさ」を感じ取ることにより、学習意欲を高め、自己実現を目指すなど、特色ある教育活動を展開している。

1 研修日程

令和5年1月19日（木） 午後1時30分～午後3時30分

2 研修先

静岡県三島市

3 研修目的

GIGA スクール構想の推進について

4 研修所感

三島市では、GIGA スクール構想に基づき、市内公立小中学校の全児童生徒を対象に、学習用 iPad（LTE通信対応）を貸与している。LTE通信対応のタブレット端末が導入されており、スマートフォンと同様に、どこでもインターネットに繋がるような仕様となっている。緊急時への対応等も考慮し、積極的に持ち帰りを行い、宿題等の家庭学習で日常的に使用している。「みんなで学ぼうタブレット端末活用のルール家庭向けQ&A」が作成されており、必要に応じて随時見直しが行われながら活用がなされている。

1 研修日程

令和5年1月20日（金） 午前9時30分～午前11時30分

2 研修先

静岡県富士宮市 富士宮市立児童館（施設見学）

3 研修目的

子育て世代包括支援センターの取り組み

4 研修所感

妊娠期から出産、子育て期にわたる相談窓口で、これからお母さんになる方や、子育て中のご家族を応援している「子育てコンシェルジュ」常駐している富士宮市立児童館（愛称：らっこ）は、令和4年5月7日にオープンし、子どもの育成や子育て世代を総合的に支援するための新たな拠点施設として、①遊び場 ②乳幼児の育児相談等、子育て支援センター ③子育て援助のファミリー・サポートセンター ④子育て相談等子育て世代包括支援センターの4つの機能を兼ね備え運営している。

## 教育民生常任委員会 行政視察研修所感

委員名

込山 文吉

令和5年1月18日(水)から20日(金)にかけ、京都市・三島市・富士宮市にて行政視察研修を行った。

その中で京都市の「不登校特例校について」、三島市の「GIGA スクール構想の推進について」、富士宮市の「子育て世代包括支援センターの取り組みについて」を中心に、研修、意見交換を行い、京都市立洛友中学校の施設見学・富士宮市立児童館「らっこ」の施設見学を実施した。

### ●京都府京都市

「不登校特例校について」

京都市立洛友中学校の取り組み(不登校特例校・夜間中学校として)

昼間部：不登校特例校 13:30~18:15

不登校を経験したが、それを克服しようとする学齢期の生徒が学ぶ

夜間部：夜間中学校(二部学級) 17:00~20:40

様々な理由により学齢期に義務教育を受けることができなかった、十分に学ぶことができなかった生徒

※2部学級：夜間中学校と不登校特例校

美術の時間を多くとるのが洛友中学校の特徴

不登校相談支援センター「ふれあいの森」

月火水木は「ふれあいの森」に通い、金は在籍校に通う

洛友中は一方通行になり、後戻りできない。

2月に授業体験→4月に体験入学→5月に転入学 一人の先生が3人を担当

自尊感情を高める意図的な取り組み

昼間部生徒指導

出来る自信をつける『支援』→より高いステップへ『指導』→認めること⇒安心『受容』(自己肯定感・自己決定・共感的理解)

夜間部 入学生が減っている。ピーク時100名→現在19名

入学生の変化(在日→在留中国→外国人)

女性が多い 平均年齢55.7歳

昼間部と夜間部の良さを生かして、世代や国籍を超えてふれあい学び合う学校

夜間部生徒「私は学びたいから学ぶのです」



●三島市教育委員会

「GIGA スクール構想の推進について」

導入端末

Apple 社 iPad 第 8 世代 32GB LTE 対応モデル

キーボード及びタッチペン

LTE 通信回線 月間 5GB/回線

※LTE 回線を標準装備したことにより、場所を選ばずに使用できる。

また、ネットワーク（WiFi）の障害時にも学びを止めることがない。

自宅に持ち帰って、自宅のネットワーク環境を気にせずに学べる。

今後の課題

次の端末更新時の端末選定と費用負担

学習データと校務データの結合

文科省 オンライン学習システム（MEXCBT）の対応

文科省 全国学力・学習状況調査の CBT の対応

教員の働き方改革

教員ステップアップシートを作成 GIGA スクール、スキルアンケートを 2022 年 9 月に実施（ステップ 3～4 が最も多い）

登校+オンライン学習の取り組み

緊急事態宣言が発令されている中での夏季休業あけの学校再開

※他市町では、夏季休業延長を決めたところもあったが、三島市は予定通り学校再開を決定。

登校を控えたい児童生徒にたいしては、1 人 1 台端末を活用したオンライン学習の取り組みを実施した。

授業のライブ配信

オンラインで配布された学習シートを教員の指示や助言により進める授業を実施

個別最適なまなびと協働的な学びを充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの事業改善を実現する。

## ●富士宮市

「子育て世代包括支援センターの取り組みについて」

妊娠期から出産、子育て期にわたる相談窓口で、これからお母さんになる方や、子育て中のご家族を応援。

「子育てコンサルジュ」が児童館「らっこ」に配置され、相談に乗っている。子育てコンサルジュだよりで「子育てお役立て情報」乳幼児「いやいや期」の特集などを配信、子育て期の不安解消の手助けをしている。

孫がつなぐ笑顔の輪「子育て応援ブック」を作成。

自分の子どもが父親あるいは母親に成長していく姿をそばで見守り、サポートし、孫との関りを通して、多くの事に気づき、「おじいちゃん」「おばあちゃん」になっていく。地域の祖父母、子育て応援したいとなり地域ぐるみの子育てを推進していく。

孫育て 10 か条

- 1 育児の主役はパパ・ママ、祖父母はサポーター
- 2 パパ・ママの話を聞く
- 3 今と昔の子育ての違いを知る
- 4 咎めるより補う
- 5 他の子、親と比べない
- 6 手、口、お金は出しすぎず、心と体力にゆとりを！
- 7 ありがとう・ごめんなさいを言う 親しき仲にも礼儀あり
- 8 孫のほめ役、夢の最強応援団になる
- 9 自分のライフスタイルも大切に
- 10 老いて行く姿を見せる

※富士宮市立児童館「らっこ」の施設見学を実施

施設は下記4つの機能を兼ね備え運営

- 1 遊戯室
- 2 乳幼児の育児相談等、子育て支援センター
- 3 子育て援助のファミリー・サポートセンター
- 4 子育て相談等子育て世代包括支援センター

令和4年5月 開館

## 教育民生常任委員会 行政視察研修所感

委員名

三谷 正史

### 1 研修日程

令和5年1月18日（水） 午後1時30分～午後3時30分

### 2 研修先

京都府京都市 京都市立洛友中学校（施設見学）

### 3 研修目的

不登校特例校について

### 4 研修所感

洛友中学の校長先生による説明。

不登校特例校と夜間中学を並立している洛友中学の取り組みについての説明と、現場視察をさせていただきました。

昼間部 不登校を経験したが、それを克服しようとする学齢期の生徒が学ぶ場。

夜間部 様々な理由により学齢期に義務教育を受けることができなかった、あるいは十分に学ぶことができなかった生徒が学ぶ場。

昼間部と夜間部の良さを生かし世代や国籍を超えてふれあい学びあう学校を目指しているとのことでした。

学齢期の生徒や高齢者等幅広い年齢層に対する諸条件の整備の大変さを痛感しました。

教育課程、学校行事に積極的に昼間部と夜間部の交流・合同を取り入れることで世代や国籍を超えて、ふれあい学びあう学校づくりができていているように感じました。

### 1 研修日程

令和5年1月19日（木） 午後1時30分～午後3時30分

### 2 研修先

静岡県三島市

### 3 研修目的

GIGA スクール構想の推進について

### 4 研修所感

三島市教育推進部 GIGA スクール推進室より説明。

児童生徒が ICT のよき使い手になると同時に、よき社会の担い手になることを目指してステップアップシートを作成している。との説明がありました。

三豊市側からの事前質問（9項目）に対する回答がそれぞれにありました。三島市では、強制ではないが児童生徒がタブレットを毎日、家庭に持ち帰っており、学習に関する利用が基本ではあるが、生徒会、部活動等にも活用され子供同士、教員と子供での意見や情報共有がしやすくなっているとのこと。

#### 1 研修日程

令和5年1月20日（金） 午前9時30分～午前11時30分

#### 2 研修先

静岡県富士宮市 富士宮市立児童館（施設見学）

#### 3 研修目的

子育て世代包括支援センターの取り組み

#### 4 研修所感

富士宮市 保険福祉部 子ども未来課、健康増進課より説明を受けた後、市立児童館の現地視察を行いました。

子育て支援の充実による出生率について

富士宮市の平成29年から令和3年までの出生率は減少している。富士宮市の子育てに関する包括支援は充実していると思うが、全国的な出生率低下の中、富士宮市でも歯止めは難しいのだと痛感しました。

## 教育民生常任委員会 行政視察研修所感

委員名	三木 秀樹
-----	-------

- ① 1月18日（水曜日）京都市  
京都市立洛友中学校「不登校特例校について」
- ② 1月19日（木曜日）静岡県 三島市  
三島市庁舎：委員会室  
「GIGA スクール構想の推進について」
- ③ 1月20日（金曜日）静岡県 富士宮市  
富士宮市庁舎：委員会室  
「子育て世代包括支援センターの取組について」  
富士宮市立児童館「らっこ」・・・施設見学

上記の「研修」を行った。

直近2年間は猛威を振るった新型コロナ拡大で感染予防のため、こうした行政研修が出来ず、かつ委員間の懇親の場も「無かった」だけに、昼間の研修だけでなく、夕食時に議員間で「日頃の議会の課題等」の本音の交流ができたことは、成果があったと認識できる3日間であった。

以下、研修のテーマ毎に「所感」を報告する。

① 1月18日 京都市立洛友中学校「不登校特例校について」

この洛友中学校は、平成19年に国から「不登校児童生徒を対象とする学校として」指定された全国唯一の学校だ。

○ その特別教育機関としての特徴は、昼間部（不登校を経験したが、それを克服しようとする学齢期の生徒15名）と夜間部（学齢期に義務教育を受けられなかった、十分に学ぶことが出来なかった生徒19名）が「世代や国籍を超えて、ふれあい学ぶ合う学校」をモットーにした独特なカリキュラムで、生徒一人ひとりが「年齢を超えた心の交流、学ぶことの楽しさ、生きがい等」を学べるよう取り組んでいる歴史ある学校だ。

○ 研修では、校長（退職後退任用として留任）から、学校の歴史及び現在の実情をパワーポイントで、「こまやか、丁寧に」説明をうけた。

私から「昔の不登校は、不良と言われる反社会的要因での不登校であったと思うが、今は非社会的な要因があると聞くが、実情はどうか」の質問に対して、（校長先生曰く）「現在の子どもは”生きることに悩ん”でいる。生きる中での“多くの不安要因がつながり、重なって”いる。学校で（学ぶことにより）”こうだ”と”思”って頂ければ、いいかなと”思”っている」と謙虚な返答に、教える立場の難しさを感じた。

○ 学校での授業は、夜間部の19名中7名以外は「外国籍」の生徒、年齢も50歳以上が16名と日本語（授業）の理解度も「違い」、年齢も「違う」中で、工夫あるカリキュラム。昼間部の生徒と合流し全員で行う音楽や美術・保健体育の「実技教科」と、日本語の習熟に合わせた国語、数学、理科、英語の「クラス編成」しての個別指導。全生徒での「宿泊旅行」等も実施されている。

○ この学校・授業を通じて、「学んだ感想に」、驚きと感動を覚えた事を紹介したい。

勉強は、将来のために我慢して勉強するとか、義務だと思っていたが、夜間部の高齢者生徒の文集に「私は、学びたいから学ぶのです。心の底から学びたいのです」を見て、考えが変わった。と昼間の生徒文。

私にとって学校は『生き甲斐』です。「楽しくて楽しくて」。昔、子どもが小さい時、宿題で判らないと聞かれても、字が読めず、「こんなかあちゃんでごめんなど、なんども心の中で謝って」色々な悩みをくぐり抜けて今まで来た。学校で、字を読んだり書いたり出来るようになり「幸せや」。先生！私これからの「しあわせのために」勉強頑張ります。夜間部の高齢女性の感想。

○ 「幸せのために勉強する」生徒が育つ学校。我が夜間中学の目標か。

② 1月19日 静岡県三島市「GIGA スクール構想の推進について」

今研修は、三島市内における小学校・中学校の GIGA スクールの「推進」状況を学んだ。

その戦略的指導は、1) 小・中における個々の児童・生徒の能力に合わせて、如何に「情報社会を生き抜ける力」を身に着けるか、その「段階的」育成方法について。2) 児童・生徒に対応して指導する先生方が「ステップアップする指針」も明確にして、ICT を積極的に利活用する中で、3) 「他律的」で無く、自ら進んで「自律的」に出来るようにするか。

全国的に行われている GIGA スクール構想の中でも、個々の児童・生徒が、自らのタブレット活用力の「現在地（能力）を知り、次のステップにすすもうとする意欲を持たせる、かきたてる」先進的取り組みであると感じた。

研修では、少し「専門的 ICT 用語」が多面的に「報告され」、アナログであると自負している「私に」とって、GIGA スクール構想が「国家的構想であり、現在の世界のグローバル社会において”遅れている日本”を挽回しようとする政府の思惑」であることから、その負の面をどう認識して取り組んでいるか、質問をおこなった。

○ 質問。タブレット等の活用について行けない児童・生徒間に新たな教育の分断は、起きていないのか。モンスターペアレントからの要求に対しての対応は。

○ 返答。同級生、隣の児童教え合っている。先生方の「ストレスチェック」は行っているが、その人たちの「対応に」疲れているのは確か。先生方の「やりがいは高まっている」が、雑務の仕事でストレスが高まるし、紙の仕事が多すぎる。子どもと面談する時間が取られる。

○ 再質問。ICT 社会で「出来る子ども」は増えるが、コミュニケーション力が、ついて行けない児童・生徒の対策は。

○ 返答。何人もの人が、「答弁したが」、的を得た回答は無かったと思う。

いずれにしても、三島教育委員会の GIGA スクール推進は、三豊市の 1 歩も 2 歩も進んでいる取り組みであり、その児童・生徒が情報社会において、思考力、判断力、表現力を身に着け、その先の問題を発見・解決する力つまり、「生き抜く力」を養う基本的指導方法であると感じるものであった。



③ 1月20日 静岡県富士宮市「子育て世代包括支援センターの取組み」  
市立児童館「らっこ」の施設見学

富士宮市の研修は、現状報告交流（1時間）、施設見学（1時間）と密な行程で、十分に富士宮市の「子育て福祉」を拝聴する時間が無く、少し消化不良的であったが、学び、気づいた点を報告する。

まずは、日本の「富士」の地元であり、雲一つ掛かっている、実に素晴らしい雄大な富士山を、間近に直視できる機会を得たことは、今後も「記憶に残る」いつ時となった。

子育て包括支援センターの研修では、「孫がつなぐ笑顔の輪」として、祖父母の「子育て支援の在り方」を聞き、三豊市でも行っているらしいのだが、その話に、聞き入った。

核家族の深化に伴い、子育てに不安を持ちながらも「努力している若い両親」に対するアドバイスの在り方である。祖父母が経験した子育て時代と、現在の若い夫婦の環境の「大きな違い」を勘案しないで、祖父母が、自らの「経験則を」基準に、かわいい孫の「育児」に口を出す。その事が若い母親に「不安や、ストレスを」高めている実情の話。核家族化した「我が家」でも起こっている。孫の親ではないと頭で理解していても、実行が伴わない我が「おじい、おばあ」のしつけ論。現実を「認める」。「それは違う」で無く、その違いを認めて、支援する。

この違いは、個人的思考で『創られたのではなく』、社会的な環境によって創られたものだけに、家族の子育てだけでなく、企業や、行政における「若者との違い」の対処にも、共通する問題であることを認識できた。

「らっこ」（市立児童館の名称、鉄骨2階建て）を見学した。1階は、遊戯室と子育て支援センター、2階は図書室と多目的スペースであるが、「空間を多くとり、穏やかに子育て出来る」施設だ。この施設内を常時3名の会計年度職員が、来られた親子に温かみのある言葉かけと楽しい「あそび」の声掛け。『けんだま検定』やりませんか？子供たちに「けんだま」に馴染んで、1級の次は十段に、次は「名人」になろうと独自の企画でもてなす。短時間であったが、昨年5月に開園し多数の親子が利用している「富士宮市の児童福祉」の拠点を見ることが出来た。

三豊市もそうだが、行政で働く職員のストレス解消と英気を養う「福利厚生施設」を、雄大な富士山を見る「富士宮市内」に創る構想が、富士山を見ながら「浮かんだ」。富士山を間近に見る圧倒的迫力に、行政で働く人々の「苦悩」は、絶対に「癒される」と思うが。